



## 外国出張報告書

平成 27 年 3 月 7 日

1. 出張国名      ラオス
2. 出張月      平成 27 年 2 月
3. 出張目的      ミズアブ幼虫の現地調達可能で安価な餌の探索・村への成虫トラップの設置：  
C

#### 4. 成果の概要

ラオスで試験を行っている養魚場では、ミズアブの飼育はほぼ問題なくできるようになり、幼虫は順調に蛹化・羽化していた。しかし、1月の低温時に成虫飛来／産卵が減少し、トラップ内幼虫密度は低下した。幼虫餌は鶏糞など現地で入手できるものを利用しているが、このうちジャックフルーツが最も成虫を誘引しているようである。1～2月にはジャックフルーツの入手が難しくなるが、出張者がこれを入手してトラップに入れたところ、翌日には成虫の飛来／産卵があった。この地域には常に成虫は存在するものの、トラップに入れる材料や天候により、成虫飛来／産卵は大きく影響を受けることが推測された。また、現地で作られるネピアグラスのサイレージを入手し、餌として利用できるか試験を始めた。さらに、鶏やねずみによる捕食や降雨を避けられるよう、試験サイトに成虫用トラップを設置するための屋根付きの台を作成した。